

令和4(2022)年度  
事業計画書

「誠実で信頼される人に」  
*Become a Sincere and Reliable Person*

すべては生徒のために  
—生徒が輝く学校づくりを目指して—

# 目 次

## 令和4（2022）年度

### I 事業計画の策定に当たって

---

1. はじめに	.....	1
2. 経営方針	.....	1
3. 中・長期の課題	.....	2

### II 事業計画書

---

1. 法人	.....	4
2. 鈴鹿高等学校	.....	6
3. 鈴鹿中等教育学校	.....	8

### III 収支予算の概要

---

1. 主な事業	.....	10
2. 収支予算の要旨	.....	11

# I 事業計画の策定に当たって

## 1. はじめに

---

令和3年度は、昨年度に引続き新型コロナウイルス感染の影響に伴い、予定されていた各種行事が中止、延期、縮小されることになりました。この中で、平成29年度以降取り組んできた教学改革、生徒募集の強化、教育環境整備事業の継続を進め、学園を挙げて改善活動を展開してきました。

令和4年度は、生徒確保については、さらに教学面の魅力・品質向上（教育力、進路実績、クラブ活動の活性化等）を重点課題として展開し、高等学校のコース制及び中等教育学校の完成に向けての諸施策を展開していき、生徒・保護者・地域の満足度を上げ、入学者数を増加させていきます。

また、教育を取巻く社会情勢は、大きく変貌してきており、グローバル化の進展、国の学習指導要領の改訂や大学入試制度改革、高大接続改革等の変化に対しては、迅速な対応が必要となります。

本学園が生徒・保護者・地域に信頼される教育機関として永続していくために、全員参画で新しい価値の創造ができる組織運営を行い、内部留保金の確保による将来への安定力強化も併せた経営改革を進めていきます。

## 2. 令和4（2022）年度経営方針

---

在校生・卒業生・教職員全員が建学の精神「誠実で信頼される人に」を体現し、社会貢献に努め、グローバル時代を生き抜く人材を輩出するために、全員が熱意と確かな専門性を持ち、生徒一人ひとりに合った教育機会を提供することをミッションとして、次の経営の基本方針で活動を展開します。

### 1. 生徒、保護者、地域の満足度向上

#### (1) 教学品質・体制の改革

- ① 高等学校コース制及び中等教育学校の完成後の両校の更なる魅力化をめざしての研究・準備
- ② 時代の変化に即応できる指導体制と教育環境の整備
- ③ 優秀な教職員の確保と教職員研修体系の充実

#### (2) 進路実績の向上

#### (3) 生徒募集の強化

#### (4) クラブ活動の活性化

### 2. 安定性、持続性、発展性を担保できる経営の展開

#### (1) 経営基盤の安定化・・・財務体質の強化

#### (2) 働き方改革に繋がる組織整備と教職員の処遇改善

#### (3) 安全安心な学校づくり・ハラスメント対策など危機管理体制の強化

### 3. 全員参画型組織の構築

#### (1) 高い目標への挑戦

#### (2) 全員が参画し、全員で方策を決め、全員で実行する組織づくり

#### (3) PDCAサイクルを活用した改革の継続

### 3. 中・長期の課題

法人は、その責務として社会に有為な人材を育成するために永続的な学校運営が求められます。このため、短期的な視点からではなく、中・長期的展望に立った運営に取り組み、本学園で学んだ生徒が、社会で有用な人材として活躍するよう教育内容・教育環境を提供していかないとはいけません。このことは教職員一人ひとりが現状に甘んじることなく改革の意識を持ち、学園一体となって改革に取り組みないと実現しないと考えています。

このため、令和2年度に策定した「中期計画」を元に毎年度の計画を実施していきます。

#### 1. 教学面において

##### (1) 授業の充実

国の新たな教育改革（高大接続改革）にむけて、学力の3要素（知識の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的・協働的に学ぶ態度）を育成するため、高等学校コース制及び中等教育学校の完成、ICT機器の導入による指導方法の改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の展開を推進します。

##### (2) 進路保障と進学実績の向上

個々のニーズに合った進路の選択を可能にできる授業を展開するため、授業評価等を活用した授業内容の改善に努め、基礎学力を保障するとともに進路実績につながる取り組みを推進します。

##### (3) ICT教育の推進

21世紀型の学習ツールとして、教育活動へICT機器の導入をすすめ、併せて教員の指導方法の発展・改善に努め、積極的にICT教育を推進します。

##### (4) グローバル教育の推進

グローバル化に伴い、多様な人々や異文化との関わりにおいて違いに対する寛容さを培い、国際交流を活発に行い、共通の倫理観・価値観を発見できる機会を増やします。また、英語等の語学力・コミュニケーション能力を育成する取り組みを推進します。

##### (5) コミュニケーションの重視

生徒間、職員と生徒の間、職員と保護者の間、職員間の良好なコミュニケーションを意識して教育活動にあたります。

##### (6) 情報メディア教育センター（EMC）有効活用の推進

読書活動の充実を初め、情報メディア教育センター（EMC）を生徒が有効活用できるよう推進します。

#### 2. 経営面において

減少が続いていた三重県の中学校卒業者は、令和4年3月に少し盛り返したものの、その後は再び長期減少となり、今後ますます入学定員（募集人員）の確保が厳しくなる状況となっています。事業活動収入（財務基盤）の強化には生徒数の確保が必須であり、そのうえで限られた予算をより効果的に配分していく必要があります。

本学園の永続的な発展に向け、教育の質を高め、維持するための健全な財務体質の構築を図ります。

(1) 生徒・保護者が満足できる良好な教育環境の提供

教育効果が引き出せる、生徒が満足し、保護者に安心・満足していただける環境アメニティを整えます。具体的には、中長期を通しての屋内、屋外施設の改善、校地活用度の向上（校地拡充）等に取り組んでいきます。

(2) 学校の教育活動が円滑、闊達、躍動的に展開できる組織の構築

新しい価値を創造することができる学校組織を目指し、教職員の健康と安全を守る体制づくりを念頭に置き、教職員が意欲をもって最大の力を発揮できる体制の構築を目指します。

具体的には、コンプライアンス遵守、ガバナンスの構築、働き方改革の視点でワークフローシステムの導入、そしてモチベーションの向上、研修体制の充実、教職協働体制の研究・導入です。

(3) 地域社会との良好な関係の発展

「学校の周辺から地域へ」と活動とその範囲を拡大していきます。具体的には、地域活動への参加、地域力の導入、地域連携、施設開放など身近な領域から地域広報の充実等も並行実施し、地域に信頼される教育機関を目指します。

(4) 健全な財務体質の構築

教育活動を円滑に行うための資金確保、内部留保の充実を図ります。具体的には、中・長期的展望に立った学園の安定的な経営のため、内部留保金の充実に努め、将来の投資に備えた「選ばれる学校」となるための財務体質の強化を確実に推進します。また、入学者数の安定化を図り、そのためには、鈴鹿ブランドの確立に向けて、広報活動を拡充し、他校との差異化・特色化を推進し、経営の安定化を図ります。

： 各年度ごとに限られた予算をより多くの事業が選択できるよう、効果的な予算配分を行う運用の仕組みを構築していきます。

令和4年 4月 1日

理事長 渡辺 久孝

## Ⅱ 事業計画書

### 1. 法人 (Corporation)

---

本学園は、平成26（2014）年4月1日に学校法人享栄学園から分離独立し、新しく学校法人鈴鹿享栄学園として発足して9年目を迎えました。創立以来、多岐にわたりご支援・ご協力をいただきました皆様方に深く感謝するとともに、今後さらなる期待に応えられる学園として成長を継続し、皆様から信頼される学校づくりに鋭意努力していきたいと考えております。

近年、私学を取り巻く状況は、少子化の影響から生徒募集における競争の激化により、財政環境も非常に厳しくなっております。しかし、厳しい環境下においても、本学園が永続的に存続していくために、バランスの取れた適正な予算配分と健全な経営資源の運用により改革を推進してまいります。

令和4年3月に3年制、6年制併せて362人の卒業生を送り、令和4年度入学生は4月まで確定を見ないこの時期、厳しい環境を見据えたうえで、経営及び教学の共通目標として、次の活動を行います。

1. 3年目を迎えた高等学校コース制及び6年目となる中等教育学校の完成による新しい価値の創造と魅力化を確立します。

上記実現のために教職員の育成、高大連携や外部から講師の招へいも含めた優秀な人材の確保を行うとともに、教育環境の改善を行い改革を加速します。

2. 教育内容の充実（授業品質の向上）

- (1) 主体的・対話内で深い学び（アクティブ・ラーニング型授業）

アクティブ・ラーニング型授業の展開、ICT機器を活用した授業の研究・充実・推進を図るとともに、そのための研修を充実します。

- (2) 探究活動

生徒が論理的思考力・判断力・表現力を習得できる教育を展開し、生徒の主体性のある探究び深化を図ります。

3. 教職員の資質向上

- (1) 教職員研修の充実

初任者研修・2年目研修（令和元年度から実施）、中堅研修（令和2年度から実施）、授業経験のない初任者対象の授業研究（令和3年度から実施）などを今後も継続し、資質向上を図ります。

- (2) グローバル人材育成のための指導者養成及び体制づくり

海外大学進学、中・長期留学の相談指導体制づくりのため、また、研究活動、情報収集及び教員研修の充実を図ります。

4. 施設面、教育環境の整備

- (1) 情報メディア教育センターの充実

主体的に考え、学び、実践し、成長できる場所としての情報メディア教育センター（EMC）の充実を図ります。

(2) 教職員の働き方改革

統合型校務支援システム等 I C T を活用した業務効率化の方策について進めます。

(3) クラブ活動活性化

練習環境の改善やクラブ活動の支援を検討します。

(4) その他

安全面、バリアフリー対策、利便性などの観点から緊急性や必要性の高いものについては投資を行っていきます。

5. 予算編成及び運用

令和4年度は、経営及び教学の事業計画の実行に向けて、財務シミュレーションや財務指標の動きを注視した予算を策定するものとします。

<財務指標>

	令和4年度	令和3年度	全国平均 ～令和2年 度決算～
	当初予算	第2回 補正予算	
事業活動収支差額比率	△2.5%	△1.7%	3.5%
人件費比率	71.1%	68.5%	64.3%
教育研究経費比率	26.5%	28.6%	26.9%
管理経費比率	4.3%	3.9%	6.6%
人件費依存率	125.2%	117.0%	120.3%
基本金組入後収支比率	111.5%	109.1%	106.1%

## 2. 鈴鹿高等学校 (Suzuka High School)

---

### 1. 教学改革

#### (1) 教育充実のための取り組み

SDGs（持続可能な開発目標）、Society 5.0、DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点が示される中、生徒が自ら学び考える主体的な学習への転換を図り、変化の激しい社会を生き抜く力を養成ということに主眼を置いたコース改革3年目となる。

令和2年度よりスタートした特進コース・探究コース・総合コースの改革が完成する年度を迎えるにあたり、3年間の課題を検証、改善し、4年目以降につなげる取り組みを行う。

#### (2) 新コースの特色

##### ① 特進コース

ア) 大学入学共通テストに対応すべく、5教科の知識・技能をバランスよく学び、さらに思考力・判断力・表現力を身に付ける。

イ) アクティブラーニング型授業を通じて日常的に主体性・多様性・協働性を身に付ける。

ウ) 教科学習と並行して、外部との活動を通じ、社会につながるスキルを身に付ける。

##### ② 探究コース

ア) 地元三重県及び東海圏の4年制大学合格を目指す。

イ) 論理的思考能力を育成し、コミュニケーションを高める。

ウ) 基礎学力を確立し、得意科目をさらに伸ばす。

##### ③ 総合コース

ア) 多様な進路希望に合わせて一人一人の個性を伸ばす。

イ) 高大連携や体験学習を通じて、希望進路の実現を目指す。

ウ) 2年次より幼児教育系、看護・医療系、総合進学系の選択ができる。

#### (3) 研修体制の確立

##### ① 初任者研修の充実

令和元年度から実施した初任者・2年目研修を継続し、研修内容の充実を図る。

##### ② 中堅者研修の充実

令和2年度から実践している中堅研修を継続し、外部有識者の有効活用を含めて中堅教員を軸に授業研究体制の充実を図る。

##### ③ ICT教育研修の推進

教科指導例の情報収集、研究及び実践

### 2. 生徒支援事業

#### (1) 支援事業の充実

多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の習得を基に思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れる。

##### ① 基礎学力の徹底修得と多様な表現活動の充実

② 鈴鹿大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学大学との高大連携を推進する。

##### ③ 現状の課題に沿った教育相談体制を整える。



## (2) ICT環境の整備

- ① 生徒用端末機器の利用推進

## (3) 教育のP D C Aサイクルによる成果の可視化

授業評価・保護者アンケート、学力分析によるP D C Aで改善を目指す。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるようにする。

- ① 授業アンケート・保護者アンケート（7月・12月実施）の実施
- ② 学力分析
- ③ 外部での研修会から力量向上を図る。

## (4) 国際交流の充実

国際化が進む中ででの高校生教育には欠かせない教育活動である交流事業を推進し、留学生の受け入れを行い、国際交流と共に外国文化理解も深めていく。

- ① 台湾・カナダ・ニュージーランド・オーストラリアとの交換留学の推進

## 3. 進路支援事業

確かな学力とキャリア感を育み、進路選択の幅を広げる。一人ひとりの進路希望を的確に把握した進路指導を推進する。小論文指導・面接指導担当者を配置し、指導の充実を図る。

- ① 国公立大学合格実績の向上
- ② 私立大学合格実績の向上（多様な入試システムに対応した指導）
- ③ 就職内定率100%を目指す（面接指導を通じ職業観を養う）

## 4. 地域連携・地域貢献事業

コロナ禍のなか、感染防止に努め、地域の清掃活動等での地域貢献及び本校行事への招待など年間を通して地域との共生を図る。また、生徒会をはじめ、各クラブの施設訪問やボランティア活動を積極的に行う。

- ① 地元地域清掃活動、地元小学校・中学校への行事参加、及び出前授業参加
- ② 施設訪問及びボランティア活動の活性化

## 5. 生徒募集・入試に係る事業

本学の教育方針をよく理解し、本学で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、受験生に必要な情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の確保を図る。コロナ禍の中でも、受験生・保護者にとって有効な方策を見出し実践する。

- ① 入学者確保のための分析・戦略、及び推薦入試の募集活動強化
- ② 広報活動の活性化（Web出願の普及活動及び更なる活用）
- ③ 広報行事のアピール内容の強化（オープンキャンパス・説明会〈対面・オンライン〉等）
- ④ 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化）
- ⑤ 地域への啓発活動（学校通信等の発行）
- ⑥ 奨学生制度の宣伝
- ⑦ ホームページ・インスタグラム・ショート動画等のツールで、鈴鹿高校の魅力の発信

- ※ SDGs・・・持続可能な開発目標。世界にある課題を世界で解決する目標。
- ※ Society5.0・・・サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間社会中心の社会（Society）
- ※ DX（デジタルトランスフォーメーション）・・・進化し続けるデジタル技術を使い、人々の暮らしを豊かにすること。

### 3. 鈴鹿中等教育学校 (Suzuka Secondary School)

---

前期・後期課程完成年度にあたりその後の進化を目指して

#### 1. 教学改革

- (1) 中等教育学校完成後（次年度以降）の新たな方策の研究と準備
- (2) 学力向上のための授業力向上へ
  - ① 生徒が自主的に学び家庭学習に習慣的に取り組む姿勢の涵養
  - ② 積極的な授業見学、授業検討会の定例化と充実
  - ③ 教科会議の充実 → 教科指導力の向上、学びの質を高める教科指導法の追求
  - ④ ICT教育の充実
- (3) 研修体制の確立
  - ① 初任者研修の充実 定着した初任者研修を継続し、授業力向上の重点化
  - ② 中堅研修 本校で経験10～15年教員が授業し、研究会の実施
  - ③ ICT研修 教科指導好事例の情報収集、研究及び実践を実施し、IT活用力の育成
  - ④ 小論文・面接の指導力を向上させるための研修
- (4) グローバル教育の推進
  - ① 国際交流（オンラインの活用と充実）
  - ② 海外研修旅行のコロナ渦における代替案の研究と実施  
シンガポール研修旅行（3年次）セブ島 語学研修（4年次）
  - ③ 海外大学進学・海外留学相談体制の充実
- (5) 総合的な学習の時間／総合的な探究の時間の充実  
「総合的な学習の時間」（前期課程）から「総合的な探究の時間」（後期課程）へ6年制の特徴を生かして令和2年度より始めた全教員による指導体制の充実

#### 2. 生徒支援事業

- (1) 学習習慣の定着および担任等とのコミュニケーションにClassiの活用することにより、セルフマネジメント力、タイムマネジメント力の育成
- (2) 科学を楽しむ企画の提案
- (3) 教育相談・カウンセリングの充実  
不登校傾向の生徒や生徒間のトラブルに悩んでいる生徒について適切かつ迅速な対応と学校間での情報共有
- (4) 情報モラル指導の強化（SNSトラブル防止啓発のための講演会等実施）
- (5) 生徒会活動の活性化  
生徒の要望や意見を受け止め、生徒が主体的により良い学校づくりに参加
- (6) 資格取得支援等校外でのチャレンジ英語検定や漢字検定などの資格取得を奨励し表彰
- (7) 生徒の主体的な活動の奨励  
ときめきサポート制度や各種コンクール等外部の行事やコンクールへの参加の奨励
- (8) GISS（英語力のある生徒による英字新聞作成等）の活動奨励
- (9) 小論文・面接指導に外部人材の導入
- (10) クラブ活動の支援（陸上競技部）

### 3. 進路支援事業

#### (1) 進路保障

- ① 大学入試実績の向上、難関国公立大学20名以上、国公立大学及び有名私立大学50名以上
- ② 各学年の模擬試験等のデータ分析を学校全体で共有し、学年を中心とした学習指導の充実

#### (2) キャリア教育の充実

- ① キャリア教育の体系化（体験から学ぶ（1年次）、職業観を養う（2年次）、労働観を養う（3年次）、学部を知る（4年次）
- ② 教材ENAGEEDを活用し、生き方・職業観・労働観の育成
- ③ 医学科進学者のための医系進学者育成プログラム
- ④ 小論文・面接指導の担当者を配置し指導の充実

#### (3) 外部の優れた人材の活用

大学教員や地域の事業主、卒業生による講演会の実施

#### (4) 皇學館大学との連携協定の締結および事業の実施

### 4. 地域連携・地域貢献事業

#### (1) 地域清掃・通学路清掃活動の実施

通学路や学校周辺の清掃（空き缶やごみ拾い）を生徒の主体的活動や地域の方々との協働作業

#### (2) 学校施設の開放・貸出

地域の方に施設（グラウンド、テニスコート、体育館、情報メディア教育センター、蔵書）を可能な限り提供する。

#### (3) 生徒が校外での活動や活躍できるようにサポート体制の構築

ボランティア活動や地元学童保育所等への訪問交流を部活動の一環にする（生徒会・科学部・吹奏楽部等）

### 5. 生徒募集・入試に係る事業

#### (1) 医進・選抜コース、特進コースそれぞれの魅力化を図る研究・議論・校内研修会の実施

#### (2) 受験者の専願率の向上を図る

#### (3) 説明会等イベントの充実

- ① あそびとまなびの体験ラリーの実施
- ② 説明会等すべての機会におもてなし精神を発揮し児童・保護者の満足度向上

#### (4) 広報活動の一層の充実

- ① ホームページについて平日はほぼ毎日新着情報を更新
- ② 生徒募集活動のシーズンオフに学校案内リーフレットおよびポスターを作成し広報活動強化

以 上

### Ⅲ 収支予算の概要

#### 1. 主な事業

事業名	内容	予算額
第1グラウンド改修工事	陸上用助走路を新設	15,000 千円
中等教育学校スロープ設置工事	本館に車いす用スロープを新設	5,500 千円
高圧受変電設備更新工事	老朽化による更新	3,000 千円
I C T機器整備	ワークフローシステム導入 (電子決済)	5,000 千円
	統合型校務支援システム導入 (成績処理・健康診断・指導要録など統合した機能を有するシステム)	10,000 千円
予算額合計		38,500 千円

## 2. 収支予算の要旨

### 1. 令和4（2022）年度当初予算の概要

#### （1）事業活動収支予算書

教育活動収支差額は△31,093千円、教育活動外収支差額は△7,597千円、両方を合わせた経常収支差額は△38,690千円となり、特別収支差額は△400千円となる。

前年度繰越収支差額△20億46,583千円に、当年度収支差額 △1億66,521千円を合わせた翌年度繰越収支差額が△22億13,104千円となる見込みである。

#### ■事業活動収支予算書（前年度予算対比）（単位：千円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
A：教育活動収支差額	△ 31,093	△ 15,030	△ 16,063
B：教育活動外収支差額	△ 7,597	△ 9,525	1,928
C：経常収支差額（A+B）	△ 38,690	△ 24,555	△ 14,135
D：特別収支差額	△ 400	△ 2,329	1,929
E：予備費	0	0	0
F：基本金組入前当年度収支差額（C+D-E）	△ 39,090	△ 26,884	△ 12,206
G：基本金組入額合計	△ 127,431	△ 104,050	△ 23,381
H：当年度収支差額（F-G）	△ 166,521	△ 130,934	△ 35,587
I：前年度繰越収支差額	△ 2,046,583	△ 1,915,649	△ 130,934
J：基本金取崩額	0	0	0
K：翌年度繰越収支差額（H+I+J）	△ 2,213,104	△ 2,046,583	△ 166,521

#### （2）資金収支予算書

資金収入は、前年度繰越支払資金の11億21,002千円と当年度資金収入16億20,621千円により、27億41,621千円となる見込みである。

資金支出の27億41,623千円から、当年度資金支出15億46,440千円を差し引いた11億95,183千円が翌年度繰越支払資金となる見込みである。

#### ■資金収支予算書（前年度予算対比）（単位：千円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
前年度繰越支払資金	1,121,002	988,003	132,999
当年度資金収入	1,620,621	1,720,028	△ 99,407
資金収入の部合計	2,741,623	2,708,031	33,592
学内勘定	585	585	0
総合計	2,742,208	2,708,616	33,592
当年度資金支出	1,546,440	1,587,029	△ 40,589
翌年度繰越支払資金	1,195,183	1,121,002	74,181
資金支出の部合計	2,741,623	2,708,031	33,592
学内勘定	585	585	0
総合計	2,742,208	2,708,616	33,592

## 2. 事業活動収支予算書

(単位：千円)

事業活動収入の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減		
	学生生徒等納付金	890,848	900,502	△ 9,654	<学生生徒等納付金> ・入学見込数減 18,290千円収入減 ・総生徒数増 12,061千円収入増 ・入学金納入者数減 3,425千円収入減	
手数料	61,403	65,903	△ 4,500	<手数料> ・受験者数減 4,500千円収入減		
寄付金	1,300	1,300	0			
経常費等補助金	555,907	537,764	18,143	<経常費等補助金> ・総生徒数増 18,143千円収入増		
付随事業収入	9,524	9,432	92			
雑収入	50,031	23,761	26,270	<雑収入> ・退職財団交付金対象者変更 26,270千円収入増		
教育活動収入 計 ①		1,569,013	1,538,662	30,351		
事業活動支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減		
	人件費	1,115,636	1,053,980	61,656	<人件費> ・退職給与引当繰入額 該当者変更 36,780千円支出増 ・新規採用、退職、雇 用区分変更等 24,876千円支出増	
	教育研究経費	416,595	439,817	△ 23,222	<教育研究経費> ・前年度費用(パソコン 機器等) 31,492千円支出減 ・本年度費用(研修旅 行等) 17,084千円支出増 ・減価償却額の変更 11,868千円支出減 ・奨学生の人教変更 3,054千円支出増	
	管理経費	67,875	59,895	7,980	<管理経費> ・募集関連費用等見直 3,563千円支出増 ・スクールバス運行見直 3,388千円支出増	
	徴収不能額等	0	0	0		
教育活動支出 計 ②		1,600,106	1,553,692	46,414		
教育活動収支差額③ (①-②)		△ 31,093	△ 15,030	△ 16,063		
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	
		受取利息・配当金	956	40	916	
		その他の活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入 計 ④		956	40	916	
	事業活動支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	
		借入金等利息	8,553	9,565	△ 1,012	
その他の教育活動外支出		0	0	0		
教育活動外支出 計 ⑤		8,553	9,565	△ 1,012		
教育活動外収支差額⑥ (④-⑤)		△ 7,597	△ 9,525	1,928		
経常収支差額 ⑦ (③+⑥)		△ 38,690	△ 24,555	△ 14,135		
特別収支	事業活動収入の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	
		資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	0	0	0	
	特別収入 計 ⑧		0	0	0	
	事業活動支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	
		資産処分差額	400	500	△ 100	
その他の特別支出		0	1,829	△ 1,829		
特別支出 計 ⑨		400	2,329	△ 1,929		
特別収支差額⑩ (⑧-⑨)		△ 400	△ 2,329	1,929		

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増減
予備費 ⑪	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額⑫ (⑦+⑩-⑪)	△ 39,090	△ 26,884	△ 12,206
基本金組入額合計 ⑬	△ 127,431	△ 104,050	△ 23,381
当年度収支差額 ⑭ (⑫-⑬)	△ 166,521	△ 130,934	△ 35,587
前年度繰越収支差額 ⑮	△ 2,046,583	△ 1,915,649	△ 130,934
基本金取崩額 ⑯	0	0	0
翌年度繰越収支差額⑰ (⑭+⑮+⑯)	△ 2,213,104	△ 2,046,583	△ 166,521
(参考)			
事業活動収入の部 合計	1,569,969	1,538,702	31,267
事業活動支出の部 合計	1,609,059	1,565,586	43,473

< 主な科目の概要 >

■ 教育活動収支の部

◇ 生徒数

(単位 人)

所 属	本年度予算数	前年度予算数	増減
鈴鹿高等学校	913	990	△ 77
(内：六年制6年生)	( 0)	(104)	(104)
鈴鹿中等教育学校	743	635	108
合 計	1,656	1,625	31

< 凡例 >  
 ・ 入学見込数  
 高等学校 300人  
 中等教育学校 120人

◇ 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金の主な内容は、授業料、入学金、教育充実費、施設維持費、授業料補助金である。

入学見込数の減による18,290千円収入の減額、総生徒数の増による12,061千円収入の増額、入学金納入者数の減による3,425千円収入の減額となる。合計9,654千円収入の減額見込みである。

◇ 手数料

手数料の主な内容は、入学検定料、証明手数料、取扱手数料である。

受験者数の減による4,500千円収入の減額見込みである。

◇ 寄付金

寄付金の主な内容は、特別寄付金、一般寄付金、現物寄付金である。

前年度予算額と同額とした。

◇ 経常費等補助金

経常費補助金の主な内容は、国庫補助金、地方公共団体補助金である。

生徒数増等による18,143千円収入の増額見込みである。

◇付随事業収入

付随事業収入の主な内容は、補助活動収入、スクールバス運行費収入である。  
スクールバス回数券売上増による92千円収入の増額見込みである。

◇雑収入

雑収入の主な内容は、施設設備利用料、退職財団等交付金、その他の雑収入である。  
退職財団交付金対象者変更による26,270千円収入の増額見込みである。

【事業活動支出の部】

◇教員数（実人数）

（単位：人）

所 属	本年度予算数			前年度予算数			増減		
	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計
学 校 法 人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴鹿高等学校	56	26	82	60	28	88	△ 4	△ 2	△ 6
鈴鹿中等教育学校	47	22	69	40	17	57	7	5	12
合 計	103	48	151	100	45	145	3	3	6

◇職員数（実人数）

（単位：人）

所 属	本年度予算数			前年度予算数			増減		
	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計
学 校 法 人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴鹿高等学校	8	11	19	9	11	20	△ 1	0	△ 1
鈴鹿中等教育学校	4	4	8	3	4	7	1	0	1
合 計	12	15	27	12	15	27	0	0	0

<凡例>

・非常勤職員	
事務職員	3人
教育相談	2人
A L T	5人
司書	3人
入試対策	1人
生徒募集	
アドバイザー	1人
計	15人

◇人件費

人件費の主な内容は、教員人件費、職員人件費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金である。

退職給与引当繰入額該当者変更による36,780千円支出の増額、新規採用、退職、雇用区分変更等による24,876千円支出の増額となる。合計61,656千円支出の増額見込みである。

◇教育研究経費

教育研究経費は、教育研究活動などに必要な消耗品費、旅費交通費、光熱水費、委託報酬料、賃借料、修繕費、会費、奨学金などの支出である。

前年度費用（パソコン機器等）による31,492千円支出の減額、本年度費用（研修旅行等）による17,084千円支出の増額、減価償却額の変更による11,868千円支出の減額、奨学金の人数等変更による3,054千円の増額となる。合計23,222千円支出の減額見込みである。

◇管理経費

管理経費は、法人業務及び管理運営、募集活動に必要な委託報酬料、手数料、広報費、渉外費、印刷製本費などの支出である。



募集関連費用の見直しによる3,563千円支出の増額、スクールバス運行見直しによる3,388千円支出の増額、その他見直しによる1,029千円支出の増額となる。合計7,980千円支出の増額見込みである。

■教育活動外収支の部

【事業活動収入の部】

◇受取利息・配当金

受取利息・配当金の主な内容は、その他の受取利息・配当金である。

資産運用の配当金による916千円収入の増額見込みである。

【事業活動支出の部】

◇借入金等利息

借入金等利息支出は、鈴鹿高等学校、校舎建設資金、情報メディア教育センター棟建設資金の借入金利息である。

返済計画に基づき1,012千円支出の減額見込みである。

■特別収支の部

【事業活動収入の部】

◇資産売却差額

資産売却差額の主な内容は、資産を売却した際の差額である。

前年度予算額と同額とした。

◇その他の特別収入

その他の特別収入の主な内容は、施設設備に関する寄付金、施設設備補助金である。

前年度予算額と同額とした。

【事業活動支出の部】

◇資産処分差額

資産処分差額が主な内容である。

資産処分の見直しによる100千円支出の減額見込みである。

## 3. 資金収支予算書

(単位：千円)

	科目	(単位：千円)		
		本年度予算額	前年度予算額	増減
収入の部	学生生徒等納付金収入	890,848	900,502	△ 9,654
	手数料収入	61,403	65,903	△ 4,500
	寄付金収入	1,300	1,300	0
	補助金収入	555,907	537,764	18,143
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	9,524	9,432	92
	受取利息・配当金収入	956	40	916
	雑収入	50,031	23,761	26,270
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	223,530	233,430	△ 9,900
	その他の収入	108,870	176,543	△ 67,673
	資金収入調整勘定	△ 281,748	△ 228,647	△ 53,101
	(当年度資金収入 合計)	( 1,620,621 )	( 1,720,028 )	( △ 99,407 )
	前年度繰越支払資金	1,121,002	988,003	132,999
	資金収入の部 合計	2,741,623	2,708,031	33,592
学内勘定	585	585	0	
総合計	2,742,208	2,708,616	33,592	
支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
	人件費支出	1,065,476	1,064,120	1,356
	教育研究経費支出	252,736	264,090	△ 11,354
	管理経費支出	65,007	58,730	6,277
	借入金等利息支出	8,553	9,565	△ 1,012
	借入金等返済支出	84,859	84,859	0
	施設関係支出	24,700	0	24,700
	設備関係支出	17,873	19,192	△ 1,319
	資産運用支出	51,430	14,650	36,780
	その他の支出	18,692	114,716	△ 96,024
	予備費	0	0	0
	資金支出調整勘定	△ 42,886	△ 42,893	7
	(当年度資金支出 合計)	( 1,546,440 )	( 1,587,029 )	( △ 40,589 )
	翌年度繰越支払資金	1,195,183	1,121,002	74,181
	資金支出の部 合計	2,741,623	2,708,031	33,592
学内勘定	585	585	0	
総合計	2,742,208	2,708,616	33,592	

<前受金収入>  
・次年度入学見込数の見直し  
9,900千円収入減

<その他の収入>  
・前年度の未収入金  
44,153千円収入減  
・特定資産取崩の変更  
23,520千円収入減

<資金収入調整勘定>  
・前期末前受金の変更  
26,790千円収入減  
・未収入金の変更  
26,311千円収入減

<施設関係支出>  
・本年度事業(陸上用助走路等)  
24,700千円支出増

<設備関係支出>  
・前年度事業(ICT関連事業等)  
2,401千円支出減  
・本年度事業(複合機入替等)  
1,340千円支出増

<資産運用支出>  
・退職給与引当特定資産の該当者変更  
36,780千円支出増

<その他の支出>  
・前年度の未払金変更  
96,024千円支出減

## <主な科目の概要>

事業活動収支予算書における収支科目と内容的に相違のない科目については、省略とする。

### ■資金収入の部

#### ◇前受金収入

前受金収入の主な内容は、生徒が入学前に納める納付金等収入である。

次年度入学見込数の見直しによる9,900千円収入の減額見込みである。

#### ◇その他の収入

その他の収入の主な内容は、前年度の未収入金（前年度退職者に対する三重県私学振興会からの交付金など）、各引当特定資産取崩収入である。

前年度の未収入金変更による44,153千円減額、特定資産取崩の変更による23,520千円収入の減額となる。合計67,673千円収入の減額見込みである。

#### ◇資金収入調整勘定

資金収入調整勘定の主な内容は、今年度末に未収となる見込みの期末未収入金、前年度に受け入れた前受金である。

前期末前受金の変更による26,790千円収入の減額、未収入金の変更による26,311千円収入の減額となる。合計53,101千円収入の減額見込みである。

### ■資金支出の部

#### ◇人件費支出

人件費支出は、事業活動支出より退職給与引当繰入額（50,160千円）を除いた金額である。

#### ◇教育研究経費支出

教育研究経費支出は、事業活動支出より減価償却額（1億63,859千円）を除いた金額である。

#### ◇管理経費支出

管理経費支出は、事業活動支出より減価償却額（2,868千円）を除いた金額である。

#### ◇借入金等返済支出

借入金等利息支出は、鈴鹿高等学校、校舎建設資金、情報メディア教育センター棟建設資金の借入金返済である。

前年度予算額と同額とした。

#### ◇施設関係支出

施設関係支出の主な内容は、建物支出、構築物支出である。

本年度の事業（陸上用助走路等）による24,700千円支出の増額見込みである。

#### ◇設備関係支出

設備関係支出の主な内容は、教育研究用機器備品支出、管理用機器備品支出、図書支出である。

前年度の事業（ICT関連事業等）による2,401千円支出の減額、本年度の事業（複合機入等）による1,340千円支出の増額、その他見直しによる258千円支出の減額である。合計1,319千円支出の減額見込みである。

◇資産運用支出

資産運用支出の主な内容は、各引当特定資産繰入支出である。

退職給与引当特定資産該当者の変更による36,780千円支出の増額見込みである。

◇その他の支出

その他の支出の主な内容は、前年度に未払であった前期末未払金や、翌年度分を前払いしている前払金である。

前年度の未払金変更による96,024千円支出の減額見込みである。

◇資金支出調整勘定

資金支出調整勘定の主な内容は、今年度分の経費で次年度に支払う期末未払金や、前年度に支払った前期末未払金である。

以 上

令和4（2022）年度 財務比率表

（単位：千円）

科目	本年度予算額				前年度予算額				増減			
	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計
学生生徒等納付金	0	540,939	349,909	890,848	0	582,797	317,705	900,502	0	△ 41,858	32,204	△ 9,654
經常収入	1,476	920,123	648,370	1,569,969	560	996,747	541,395	1,538,702	916	△ 76,624	106,975	31,267
事業活動収入	1,476	920,123	648,370	1,569,969	560	996,747	541,395	1,538,702	916	△ 76,624	106,975	31,267
人件費	29,749	631,758	454,129	1,115,636	29,743	669,187	355,050	1,053,980	6	△ 37,429	99,079	61,656
教育研究経費	0	281,759	134,836	416,595	0	301,340	138,477	439,817	0	△ 19,581	△ 3,641	△ 23,222
管理経費	7,216	31,401	29,258	67,875	7,163	25,817	26,915	59,895	53	5,584	2,343	7,980
經常支出	36,965	952,779	618,915	1,608,659	36,906	1,005,268	521,083	1,563,257	59	△ 52,489	97,832	45,402
事業活動支出	36,965	953,179	618,915	1,609,059	36,906	1,005,768	522,912	1,565,586	59	△ 52,589	96,003	43,473
基本金組入額	0	△ 119,991	△ 7,440	△ 127,431	0	△ 103,249	△ 801	△ 104,050	0	△ 16,742	△ 6,639	△ 23,381
基本金組入前当年度収支差額	△ 35,489	△ 33,056	29,455	△ 39,090	△ 36,346	△ 9,021	18,483	△ 26,884	857	△ 24,035	10,972	△ 12,206
※減価償却額	0	114,298	52,429	166,727	0	118,412	60,309	178,721	0	△ 4,114	△ 7,880	△ 11,994

○学校法人経費を生徒数按分で各所屬別に配分した場合の経費

（単位：千円）

科目	本年度予算額				前年度予算額				増減			
	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計
学生生徒等納付金	—	540,939	349,909	890,848	—	582,797	317,705	900,502	—	△ 41,858	32,204	△ 9,654
經常収入	—	920,935	649,034	1,569,969	—	997,128	541,574	1,538,702	—	△ 76,193	107,460	31,267
事業活動収入	—	920,935	649,034	1,569,969	—	997,128	541,574	1,538,702	—	△ 76,193	107,460	31,267
人件費	—	648,120	467,516	1,115,636	—	689,412	364,568	1,053,980	—	△ 41,292	102,948	61,656
教育研究経費	—	281,759	134,836	416,595	—	301,340	138,477	439,817	—	△ 19,581	△ 3,641	△ 23,222
管理経費	—	35,369	32,506	67,875	—	30,687	29,208	59,895	—	4,682	3,298	7,980
經常支出	—	973,110	635,549	1,608,659	—	1,030,364	532,893	1,563,257	—	△ 57,254	102,656	45,402
事業活動支出	—	973,510	635,549	1,609,059	—	1,030,864	534,722	1,565,586	—	△ 57,354	100,827	43,473
基本金組入額	—	△ 119,991	△ 7,440	△ 127,431	—	△ 103,249	△ 801	△ 104,050	—	△ 16,742	△ 6,639	△ 23,381
基本金組入前当年度収支差額	—	△ 52,575	13,485	△ 39,090	—	△ 33,736	6,852	△ 26,884	—	△ 18,839	6,633	△ 12,206
※減価償却額	—	114,298	52,429	166,727	—	118,412	60,309	178,721	—	△ 4,114	△ 7,880	△ 11,994

（単位：％）

比率名	全国平均 (令和元年度)	本年度予算比率				前年度予算比率				増減			
		学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計
事業活動収支差額比率	3.5%	—	△ 5.7	2.1	△ 2.5	—	△ 3.4	1.3	△ 1.7	—	△ 2.3	0.8	△ 0.8
人件費比率	64.3%	—	70.4	72.0	71.1	—	69.1	67.3	68.5	—	1.3	4.7	2.6
教育研究経費比率	26.9%	—	30.6	20.8	26.5	—	30.2	25.6	28.6	—	0.4	△ 4.8	△ 2.1
管理経費	6.6%	—	3.8	5.0	4.3	—	3.1	5.4	3.9	—	0.7	△ 0.4	0.4
人件費依存率	120.3%	—	119.8	133.6	125.2	—	118.3	114.8	117.0	—	1.5	18.8	8.2
基本金組入後収支比率	106.1%	—	121.5	99.1	111.5	—	115.3	98.9	109.1	—	6.2	0.2	2.4

以上



学校法人 鈴鹿享栄学園